



か が や き

菊川市立小笠北小学校 学校便り

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」

重点目標 「自分をみがく子 ささえ合う仲間」

令和7年2月吉日

日頃より、学校の教育活動への御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。アンケートの結果を受け、来年度の教育活動を考えていきたいと思ひます。

1 子どもアンケート結果(令和5、6年度の12月を比較)

肯定的評価: 当てはまる どちらかというと当てはまる ほぼ毎日 週3回以上

強肯定評価: 当てはまる ほぼ毎日

	R5 %		R6 %	
	肯定	強肯定	肯定	強肯定
1 学校が楽しい	93	70.4	91.4	65.7
2 みんなで何かをするのは楽しい	97	80.1	97.5	77.5
3 自分にはよいところがある	90	66.5	86	63.9
4 進んであいさつしようとしている	93	68.7	88.9	55.7
5 授業に主体的に取り組んでいる	94	56.6	92.9	50.8
6 授業がよくわかる	91	53.5	92.3	50
7 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている	90	55.3	88.1	51.4
8 相手の思いや考えをわかるまで聞こうとしている			91.1	51.1
9 自分の考えをもとに、進んで問題を解こうとしている			88.1	46.5
10 身振り手振りを使って、表現することが得意である			75.3	35.4
11 分かったことをたくさん書ける			87.4	55.7
12-1 授業でiPadを使って調べ学習をした	95	64.8	73.6	44.6
12-2 授業でパソコンやiPadを使って、友達と意見の交流をした	84	42.2	72.5	38.8
12-3 授業でパソコンやiPadを使って、自分の考えを、まとめたり発表したりした	78	30.8	62	31.8
13 学校に、信頼することのできる先生がいる	93	76.8	95.6	75.4
14 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	89	49.7	88	45.4

アニマルズ
きたしょう★神獣



2 保護者アンケート結果(令和5、6年度を比較)

数値は、「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」を合わせた肯定的な回答数値

	R5 %	R6 %
1 わが子は学校生活を楽しんでいる	 96	 97
2 わが子は学校でみんなと何かをするのが楽しいと感じている	 98	 98
3 わが子は授業の内容がわかっている	90	89
4 北小のホームページを見ている		49
5 わが子は宿題に進んで取り組んでいる		78
6 わが子は身振り手振りを使って表現することが得意である		70
7 わが子は家で読書をしている		63
8 わが子は家で話を最後まで聞き、自分の考えを伝えたり返事をしたりしている		81
9-1 SNS やゲームのやり方や時間など、家での約束がある	85	89
9-2 ある) わが子は、SNS やゲームの約束を守っている		58
10 わが子は規則正しい生活をしている		47
11 わが子は睡眠時間をとれくらいとっているか	9時間以上 8~9時間 7~8時間	21 59 20

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 児童、保護者ともに「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の数値が、2年連続 90%を超えた。これは、児童会を中心に、昨年度の取り組みを継続・発展させてきたからである。今年度は、目指すあいさつ「北小ナンバーワンあいさつ」や北小アニマルズ(きめた・だまるん・みるき・アウプ)が発案され、子どもたちが主体となって活動する姿がたくさん見られた。一人一人が、自己存在感、自己有用感を向上させることにつながった。
- イ 「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」と答える児童が、2年連続 90%を超えた。これは、分かる授業の継続に加え、フラワーパワー大作戦や地元企業とのコラボ活動など、学校の枠を超えた活動を通して、「もっと関わりたい」「もっと地域のためになりたい」という子どもたちの意欲向上の成果である。今後も地域を巻き込み、主体的な学びを継続させていきたい。

(2) 課題

- ア 「授業がよく分かる」の数値は、児童と保護者で意識の差がある。学校で学習したことがわかっているとしてもそれが定着につながるとは限らない。どんな学習を行ったらよいのか、自分に必要な学びは何か、子どもたちが考えて学習できるようにしていく必要がある。また、家庭学習については、引き続き保護者の協力をいただきながら、子どもが意欲的に学ぶことができるようにしていきたい。
- イ 「自分にはよいところがある」の数値が 90%を下回った。今後は、相手を思いやる言葉遣いや行動、トイレの使い方、安全な休み時間の過ごし方、聴き方など、みんなが気持ちよく生活できる「思いやり環境」について、子どもたちが考える場を設定していく。そして、互いの良さを認め合う温かい関係づくりの中で、自己肯定感をさらに向上させていきたい。

4 学校運営協議会、民生児童委員、地域の方から

- (1) いつも子どもたちから元気をもらっている。先生との関わり、発表、声の反応を見ていると、思わず笑顔になる。学年が上がるにつれて、落ち着いて学習に取り組む姿が見られた。
- (2) 北幼稚園の子もよくしゃべる。こういう子たちが、北小に上がっていくのがとても楽しみ。1年生が成長して、幼稚園児からすっかり小学生になっていて、学習に向かっていることをひしひしと感じた。
- (3) 横断歩道で車が止まると、大きな声でお礼を言ってぺこりとお辞儀をする北小の子がいる。大変気持ちのよい態度で、嬉しくなった。
- (4) 地域とのコラボ(企業コラボ、北小弁当、フラワーパワー大作戦、北小ダンス、北小ソング、お金の勉強等)と、コミュニケーションのよさで「学校は楽しくてみんなと何かしたい」という気持ちが伸びている。
- (5) 言語の壁により課題を解決したい。花や体験は言語を超えた「感情の育成」に役立つ。